

1 月号
VOL. 494

土會奈良



SHIKAI

2017 NARA

表紙のことば

マッターホルン



逆さマッターホルン



ツエルマットの町からの遠望

マッターホルンはアルプス山脈に属する標高4478mの山でイタリア語では（チェルヴィーノ）（高地の）「鹿の角」で、山頂にはスイスとイタリアの国境が通り、麓の町はスイス側にツエルマット、イタリア側にチェルヴィニアがある。名称はドイツ語で牧草地を表す「matt」と山頂を表す「horn」に由来している。

世界的に有名な山で山体はピラミッド型で4つの斜面があり、東壁の落差は1000m。北、南、西壁はそれぞれ1200m、1350m、1400mほどである。東側と北壁がツエルマットの町から見える切り立った北壁はアイガー及びグランド、ジョラスと合わせて三大北壁と呼ばれている。「魔の山」と別名があるほど恐れられた山でもあり、長くその頂上を踏みしめる者はいなかった。が現代のマッターホルンは比較的手軽な登山を楽しめる4000m級の山として人気がある。また登らなくても麓から眺めるのも美しい山である。マッターホルンはただの岩の隆起でも彗星の影響の産物でもない。多くの山の様に火山でもない。地球自身の造山活動を行っていた時に自然と形成された岩を、氷河期に厚く覆っていた氷河が削って形を整えたものだそうです。ツエルマットからは登山鉄道やロープウェイを利用して展望台へと手軽に向かうことが出来る。登山に精通していなくても楽しいハイキングコースも沢山ある。麓には美しく澄んだ湖がいくつかあって逆さマッターホルンをあちこちで見ることが出来る。

(写真・文 提供 出原 眞)

情報・広報委員会

委員長 松尾 憲治

副委員長 折目 貴司 大倉 克之

委員 乾井 哲 水守 寛敏
松村 泰徳 小松原寛俊
崎山 泰正 福西 保夫
福本 保治 藤井 靖彦
宮浦 重彦

Contents

001

「新年のご挨拶」

004

「参与会」

年賀広告

005

「役員・有志」

年賀広告

006

日本建築総合試験所
鋼と建築 第5回「摩擦の原理と高力ボルト
接合の話題」

008

「第59回建築士会全国大会「大分大会」
レポート」

014

榎原支部
「榎原支部創立30周年」

016

桜井支部
「桜井まちづくり株式会社〈まちづくり事業化
桜井駅周辺地区〉」

018

郡山支部
「第42回親子まつり」レポート

020

高田支部
「結いの心マルシェ in 大和高田 出展事業」

021

桜井支部
「中南和六支部合同ゴルフコンペ・親睦会」

022

「奈良県立高等技術専門校のご紹介」

024

生駒支部
「HUG（はぐ：避難所運営ゲーム）」

025

お知らせ
「平成29年新年大交歓会」他



新年のご挨拶



平成29年度

年 頭 所 感

(一社)奈良県建築士会

会 長 瀧 上 徳 光

2017年、新年あけましておめでとうございます。

2016年に行われましたリオデジャネイロ・オリンピックも成功裏に幕を閉じ、次は2020年に待望の東京オリンピックが開催されます。更に、その後、国際博覧会を日本に誘致しようと検討も為されており、日本の魅力を世界に発信し、新たに観光客やビジネスマンを呼び込むだけにとどまらず、日本の成長に資する様々な効果が期待されます。

これらの夢膨らむ日本国家を挙げてのプロジェクトによる成長戦略とは裏腹に、日本列島は、東日本大震災、熊本地震、大型台風の度重なる来襲、洪水、火山噴火等、未曾有の自然災害に見舞われています。この恐怖は社会に防災・減災、そして復旧・復興とすぐさま取り組まなければならないと言う使命を与え、私たち建築士の果たす役割は益々重要なものとなり、市民からのニーズや期待は日々増しております。

このような状況を鑑み、奈良県建築士会は災害対応活動への

支援・協力を更に推し進めたいと考えております。また、応急危険度判定士のネットワーク構築を整え、安全な住まいづくりとして耐震対策を促進し、空き家を整備し、災害に強い街区形成を行い、景観や美しい街づくりを目指し、環境整備事業への支援・協力を推進していきたいと考えております。

また昨年から、新しく生まれ変わった「奈良県景観デザイン賞2016」の募集・審査が進められております。多数の応募作品の中から奈良県の景観形成に寄与する建築物・街並み・ランドスケープ・街づくり活動を選出しており、まもなく皆様にご報告できると思います。また、歴史的建造物の調査・保存・活用提案なども実施されており、その専門家として育成された100名を超えるヘリテージマネージャーが携わっております。更に、各委員会や各支部活動の中で様々な事業や行事が活発に展開されており、皆様の多大なるご協力には大変感謝申し上げます。

環境を形成し、文化の発展に寄与する「建築」の重要性をアピールする活動は建築物を造る側の義務でもあります。これからも、私たち奈良県建築士会は、技能の研鑽はもとより知恵と技術を結集し、様々な仕掛けを考え、行政や各種団体とも更に綿密に連携・協働し、建築士の職能を活かした社会貢献にまい進していきたいと考えております。変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



平成29年

新年ごあいさつ

奈良県知事

荒 井 正 吾

奈良県建築士会会員の皆様、明けましておめでとうございます。平成29年の年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年4月には、神武天皇二千六百年式年祭の儀山陵の儀に際し、天皇皇后両陛下がご来県されました。改めて、奈良は日本のはじまりの地であることの誇りとありがたさを感じさせていただきました。本年も両陛下のご健勝とご皇室のいやさかを心からご祈念申し上げさせていただきます。

また、昨年は米大統領選を始めとして、世界の政治経済の動きが予想を超えて激しくなってきた感じがいたしました。わが国の政治経済も変動が続いていますが、より安定した、より発展的な方向へ向かうよう祈るばかりです。わが奈良県では、不安定な世界の動きに拘らず、しっかりと歩みで豊かで住みよい奈良が実現できるよう、精一杯まじめにこつこつと頑張ら

せていただきます。

まず、奈良市内の県営プール跡地周辺では、世界最高級ホテルのJWマリオットの進出が決まり、天平風の屋外多目的広場や大会議室等の建設が始まります。桜井市安倍地区に開校した「なら食と農の魅力創造国際大学校」の研修施設であるオーベルジュとレストランが堅調であり、周辺のセミナーハウスなどの整備に取り組みます。奈良公園内の吉城園周辺等について、従来の風情を堅持したまま高級感のある低層ホテルを整備する活動を開始いたしました。奈良公園の玄関口に（仮称）登大路バスターミナルの建設、平城宮跡朱雀門前西の大宮通り側に実物大遣唐使船を設置する観光交流拠点の建設がそれぞれ始まっています。

本年は奈良県で初めて国民文化祭を実施いたします。障害者芸術・文化祭と全国で初めて一体開催し、これまでの奈良県大芸術祭と合わせてユニークな文化事業に取り組みます。天理市に開設予定の（仮称）奈良県国際芸術家村を子どもたちの芸術活動、文化財の修復等の拠点とします。

また、平城宮跡の冬のイベント「奈良大立山まつり」や、「ムジークフェストなら」など、奈良らしい文化の催しで多くの観光客をおもてなしいたします。

今年も皆様とともに、奈良の発展に力を尽くしたいと思います。今年もよろしくお願い申し上げます。



新年 あけまして おめでとうございます。

奈良市長
仲川 げん

奈良県建築士会会員の皆さまにおかれましては、清々しい初春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素から、本市市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、近年我が国におきましては多くの自然災害が発生しておりますが、風水害などと異なり予測が極めて困難な地震は、一瞬にして多くの人の生命、財産を奪い、その後の生活にも非常に大きな経済的、精神的な負担を残すものであり、その対策は極めて重要なものです。

「地震が少ない」と言われ、幸いにも近年地震による大きな被害が発生していない本市ですが、昨年は4月に熊本地震、さらに10月には鳥取県中部地震といった大規模地震が起こり、近く発生が予想されている南海トラフ巨大地震に対する防災、減災を強く意識した市民も多かったと思います。



新年のご挨拶

橿原市長
森下 豊

平成29年の年頭にあたり、(一社)奈良県建築士会の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は本市の建築行政にご支援・ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

近年において、大地震が頻発しており、特に、平成23年3月に発生した東日本大震災は、これまでの想定をはるかに超える巨大な地震・津波により、一度の災害で戦後最大の人命が失われるなど、甚大な被害をもたらしました。また、昨年4月の熊本地震では、震度7が続けて2回観測されるなど大きな被害を受けました。そこで、これらの既往地震での被害状況を踏まえ、市民の安全・安心を確保し地震被害の軽減を図るため、平成19

年度に策定しました市耐震改修促進計画を、昨年改定しました。古よりシルクロード、竹内街道、横大路、下ツ道など多くの道（文化・経済・人）が交わってきた橿原市。今もその役割をしっかりと担っており、横大路のように市を東西に走る中和幹線や竹内街道のように大阪と奈良を結ぶ南阪奈道路など交通網の整備が進んでいます。

皆様もご存じのとおり、本市は国内外から多くの観光客が訪れ、2015年にはその数が約1500万人となりました。市民が安心して「暮らせる」まちづくりはもちろんのこと、観光客にも安心して「訪れてもらえる」まちづくりが本市には求められています。そのためには、人々が暮らし、集う「建築物」の安全性を高めることが非常に重要であると考えています。

本市におきましては、未来を担う子どもたちの生命を守り、また市民が安心して避難をできるよう、本年3月末までに市立の保育園、中学校の全ての校舎で100%、幼稚園、こども園で93パーセント、小学校で97パーセント、高校で90パーセントの耐震化を目標としています。また、市民が生活を営む住宅をはじめ、病院、大型店舗、宿泊施設など不特定多数の人が利用する建物の耐震化の促進にも努めていきたいと考えています。

建築物は、人々の生命と財産を守る、暮らしの中で最も重要な場所です。その耐震診断、耐震改修設計や施工管理等におきまして、専門分野の知識や技術を発揮していただいている皆様には敬意を表しますとともに、深く感謝をいたしております。

安心して暮らし訪れることができるまちづくりのために、本年も市政に更なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとりまして、新しい年が幸多き素晴らしい一年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

また、近鉄八木駅を中心としたまちづくり整備はその核となるものであり、現在、駅南側では行政サービスのワンストップ機能を持った市役所と宿泊施設を兼ね備えた複合施設の整備を来年春のオープンに向けて進めており、今後も駅前を中心としたにぎわいの創出を図ってまいります。

奈良県では現在、市町村と様々な分野で連携しながらまちづくりを行う「奈良モデル」を進めており、橿原市としても観光や医療・交通・防災など、地域特性を活かした施策を県と連携・協議しながら市民の皆さまが安心して暮らせる魅力あるまちづくりをこれからも進めてまいります。

最後になりましたが、(一社)奈良県建築士会のますますのご発展をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭挨拶

生駒市長 小紫雅史
こむらさき まさし

あけましておめでとうございます。

旧年中は本市行政にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、「日本一楽しく住みやすいまち、いこま」をスローガンに、市政の発展に必要な施策を積極的に推進してまいりました。特に昨年は、子育て支援施策に力を入れ、子ども通院医療費の助成を中学校卒業までに拡大、待機児童数の削減を図るため保育園の受け入れ定数を175人増加するなど、様々な取り組みを実施いたしました。

その結果、本市は健全性の高い財政状況を保っており、定住希望率や市民満足度においても高い評価を得られております。しかし、一方では、人口増加が頭打ちとなりつつあり、少子高齢化と合わせて大きな課題となっております。

これからの時代、住宅都市である生駒市が人口減少・少子高齢化を生き抜くためには、現在の“住みやすい・便利がよい・

自然が豊かな”住宅都市にさらなる魅力を加え、「住宅都市＋アルファ」のまちづくりを進める必要があると考えています。

そのための取り組みとして、安心・安全のまちづくりは欠かせないと考えております。昨年は、熊本地震をはじめ、各地において地震が相次ぎました。本市におきましても、市役所庁舎の耐震改修工事を完了させたところではございますが、市内の住宅や民間建築物の耐震化についても、しっかりと推進してまいります。

また、近年は空き家問題も深刻になってきており、中古住宅の流通を促進していくことが大切であると考えています。今後は、既存建築物の用途変更や耐震改修、既存ストックの活用や改善に関するニーズが増えると予想されます。これらの課題を解決するためにも、奈良県建築士会の皆様のお力添えが必要となってまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年は、私が市長に就任し3年目の年となります。就任以来、ひとづくりに重点を置き、日本一楽しく住みやすいまちづくりを進めてまいりました。今後は、今まで以上に市民や事業者の皆様との連携を強化し、“協創”によるまちづくりを進めてまいります。そして地方創生時代にふさわしい次世代の住宅都市として全国モデルとなるよう、本年も職員とともに一丸となって全力で挑んでまいります。

最後になりましたが、貴会の今後益々のご発展と、皆様のご健勝を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年

(一社)奈良県建築士会参与会々員

(株) 浅沼組 (奈良営業所) 奈良市三条本町4-32 中室ビル ☎0742-26-5225 大西宏次	大倭殖産(株) 奈良市藤ノ木台1-2-15 ☎0742-43-9191 矢追家麻呂	(株) 奥村組 (奈良支店) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 朝日務	(株) 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田芳信
(株)鍛冶田工務店 (奈良本社) 御所市150-3 ☎0745-65-2131 鍛冶田八彦	(株) 崎山組 橿原市南八木町2-3-35 ☎0744-22-2353 寄山雅由	清水建設(株) (奈良営業所) 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 正井洋	大日本土木(株) (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 高田正晃
(株)中和コンストラクション 桜井市桜井281-22 ☎0744-42-9313 大浦基嗣	(株) 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾隆成	中村建設(株) 奈良市三条大路1-1-48 ☎0742-33-1001 中村光良	(株)平成建設 橿原市曽我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎雅之
(株) 槇峯建設 高市郡高取町丹生谷1061 ☎0745-67-0084 槇峯豊美	松塚建設(株) 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 松塚幾善	村本建設(株) 北葛城郡広陵町大字平尾11-1 ☎0745-55-1151 市岡武	(株) 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下秀城
(株) 山上組 奈良市鳥見町1-1-3 ☎0742-44-0063 山上武宏			

明けましておめでとらござります

役員有志

井上建築工房アルス 大和郡山市北郡山町158-6 大和第3ビル204 0743-51-0286 井上慶治	今西工務店 宇陀郡曽爾村大字掛254番地 0745-94-2588 今西清秀	岡本設計 五條市本町1-7-30 0747-22-0282 岡本光弘	坂下建築設計事務所 天理市三島町167 0743-62-0306 坂下恭浩
(株)中和設計 橿原市今井町2-1-14 0744-25-5356 中谷芳一	(株)榎谷設計 奈良市西ノ京町101-1 0742-34-1461 中元綱一	(株)福本設計 奈良市大宮町6-4-21 0742-34-2800 西峯隆司	(株)福本設計 奈良市大宮町6-4-21 0742-34-2800 福本保治
渕上設計 奈良市秋篠町765 0742-47-4100 渕上徳光	エムタック 桜井市浅古903 0744-45-1097 松尾憲治	松塚建設(株) 宇陀市榛原福地610-1 0745-82-1371 松塚幾善	ビル・エイド(株) 橿原市葛本町118-1 0744-35-6639 森田恵介
(株)山本工務店 桜井市芝1362 0744-42-5441 山本規子	(株)関西工務店 大和高田市材木町1-3 0745-52-1515 吉田泰造		



1. はじめに

今回は筆者が関わった高力ボルト（H T B : High Tension Bolt）接合に関連する2件の開発課題について紹介したい。手前味噌を御容赦いただきたいが、いずれも民間企業との共同研究である。

H T Bは、鋼構造骨組における梁や筋違の継手に多用されている。図1は現状の設計規準によるH T B摩擦接合の例である。図1の場合、筋違継手の長さは両側合わせて全長の2/3ほどであるが、断面がさらに大きくなると全長のほとんどが継手となることもある。1990年台の初頭、継手のH T B本数の削減を目的とする研究を開始した。

2. 高力ボルト摩擦接合¹⁾

H T B摩擦接合の原理を図2に示す。H T Bをその降伏点に近い軸力で締め付け、母材と添板の摩擦によって軸力Pが伝達される。これを可能にしているのが摩擦面（母材と添板の界面）に作用している摩擦力の存在である。

従来のH T B摩擦接合部の摩擦面はブラスト処理か赤錆発生が条件となっていて、これによって設計上0.45のすべり係数（摩擦係数と同じ意味）を設定できることになっている。図1はF10T M22と0.45のすべり係数を前提としたボルト本数を表している。例えば、建築で多用されているM22（軸部の直径22mm）のH T Bでは初期締め付け軸力は205kN、すべり係数は0.45であるから、図2で伝達されるPの値（HYB1本当たり）は次のようになる。

$$P = 0.45 \times 205 \times 2 \text{ (2面摩擦)} = 184 \text{ kN}$$

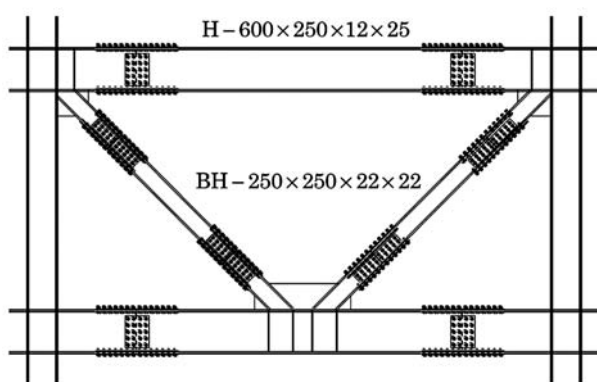


図1 高力ボルト摩擦接合部

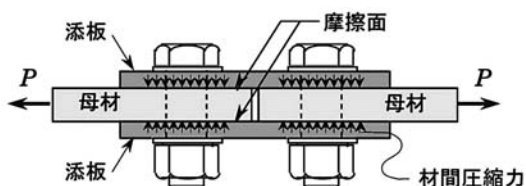


図2 高力ボルト摩擦接合

ボルト軸力は引張力Pの作用下で低減する。摩擦係数はすべり発生時のボルト軸力に対応するが、すべり係数 μ_s は初期ボルト軸力 N_0 に対して定義されたものである。ここでは、すべり係数と摩擦係数はほとんど同じだと理解しておけばよい。ボルト本数を減らすためには N_0 を増やすか μ_s を大きくしなければならない。

N_0 を増やすためにはボルト強度の増大が必要がある。これについては、現状のF10T級H T Bの約1.5倍の強さをもつF14T超高力ボルト（商品名S H T B）が開発され²⁾、1999年に建設大臣（現国土交通大臣）の一般認定を取得している。この超高力ボルトは、遅れ破壊に関するそれまでの常識を打ち破った画期的なものである。

3. 摩擦の原理^{3, 4)}

「摩擦係数はみかけの接触面積に無関係」という有名な摩擦の原理は、クーロンによって18世紀末に確立されたものである。ところで摩擦係数という概念をはじめて定義したのはレオナルド・ダ・ヴィンチである。16世紀初頭のことであり、彼は既に上記の摩擦の原理を認識していた。

クーロンの凹凸説というのは、摩擦面の凹凸を乗り越えるのに必要な力を摩擦力とする説である。これに対して凝着・掘り起こし説は20世紀になって確立されたもので、18世紀の分子説に端を発する。現在ではこの分子説から発展した凝着・掘り起こし説が定説となっている。

摩擦面は2つの物体の接触面である。物体の表面は平らではなく必ず凹凸があり、凸な部分の一部が相手の物体と接触している（図3）。これを真実接触面（凝着部：分子間結合して一体となっている）といい、その面積は見掛けの面積よりかなり小さい。

図3に示すように、凸部分の一部は他方の物体にくい込んでいる。こういう状態で摩擦力が作用すると、凝着部はせん断破壊し、くい込んだ部分が前面の金属を圧壊する（掘り起こし）。つまり、摩擦とは界面の破壊現象であり、摩擦力は凝着部のせん断耐力と掘り起こし抵抗の和である。

4. 波形高摩擦鋼板

図3の破壊の他にも2種類の破壊形態が存在し、これを考慮すると図4に示すような2つの金属の硬さ比と摩擦係数との理論的關係が導かれる⁵⁾。

図4は硬い方の金属表面の突起の角度 θ を90°の波形に加工した場合の關係を表していて、この關係は実験的に確認されている⁴⁾。

鋼の場合、凝着部のせん断破壊による摩擦係数は0.2と一定

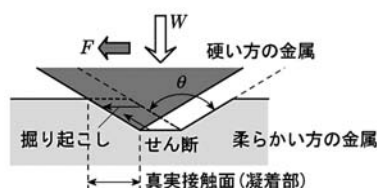


図3 凝着・掘り起こし

略 歴

井上一郎 (いのうえ かずお)

(一財)日本建築総合試験所 副理事長・試験研究センター長。工学博士。
1946年福岡県生まれ。1970年九州大学大学院工学研究科建築学専攻修了。
日立造船株式会社設計部、大阪大学工学部・助手、助教授、京都大学大学院
工学研究科・教授、岡山理科大学総合情報学部建築学科・教授を経て現職。

賞 罰

1997年 日本建築学会学会賞(論文)受賞。1998年 日本鋼構造協会奨励賞
論文部門受賞、2008年 日本鋼構造協会論文賞受賞

値である。一方で掘り起こし抵抗を増やすためには、「硬い金属を軟らかい方の金属に深く食い込ませればよい」ということになる。このためには硬さ比を3以上とし、摩擦面の接触圧 σ を軟らかい方の金属の引張強さの半分以上で、突起の角度 θ を小さくすればよい。以下では $\theta=90^\circ$ 、突起の高さが0.5mmの場合を示すこととする。

母材側の摩擦面仕様を変化させた場合のすべり試験結果を図5に示す。この結果、すべり係数0.9の高摩擦鋼板の大

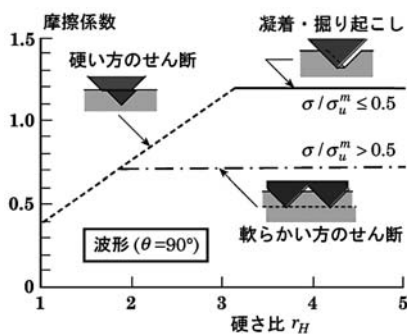


図4 摩擦面の破壊モードと摩擦係数

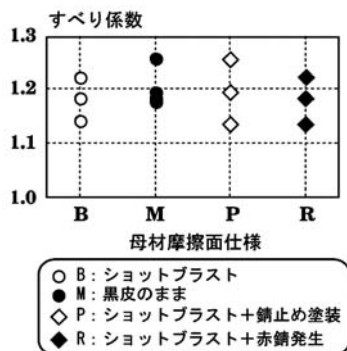


図5 波形高摩擦鋼板のすべり試験結果

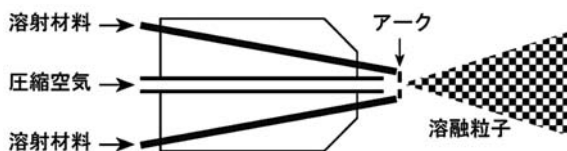


図6 アーク溶射の原理

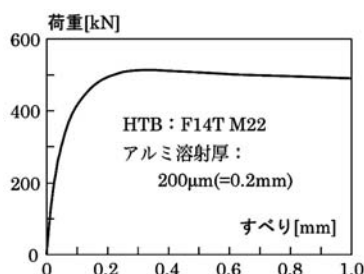


図7 アルミ溶射添板を用いたHTB継手のすべり試験結果

臣認定を取得した。これを使えばボルト本数は半減し、さらにF14T級HTBと組み合わせると必要本数は1/3になる。これは関西電力本社ビルの制振ブレース接合部をはじめいくつかの高層建物に適用されてきた。しかし、この添板の製造に機械加工と焼入れ工程が必要なため、コストの壁を乗り越えられず、製造中止という残念な結果に終わった。しかし摩擦係数が1を超える製品の製造は可能である。

5. アルミ溶射添板

アルミ溶射は、棒状の材料をアークで熔融状態とし、母材表面に衝突させて皮膜を形成する表面皮膜法の一つである(図6)。この溶射技術は、金属の防錆・防食技術として、例えば、橋梁などの耐候性が求められる建設物などに多用されている。

HTB摩擦接合部において、アルミ溶射は添板側のみで母材摩擦面は黒皮除去が条件となる。この場合、摩擦係数に大きく影響するのはアルミ溶射の皮膜厚さであり、0.3mm以上あれば0.8以上のすべり係数が安定して確保されることを実験で確認している。この条件の下に設計用のすべり係数を0.7と設定し、技術証明が取得されている。

アルミの強度・硬さは鋼の1/3ほどである。アルミ溶射添板を使用した摩擦面の破壊は図4の軟らかい方のせん断となる。アルミ溶射添板を用いたHTB接合部のすべり試験結果の一例を図7に示す。この特徴は、すべり音がしないこと、すべった後も摩擦力がほぼ維持されることである。この方法により、従来の摩擦面処理に比べてボルト本数は2/3になり、F14T超高力ボルトと組み合わせると半分になる。製造コストは波形高摩擦鋼板に比べて格段に低く、「あべのハルカス」の柱梁接合部などに使用実績をもつ。

6. おわりに

溶接は、施工・検査ともに高度な技能を要求されるが、高力ボルト接合の施工は簡単で、品質のバラツキは小さい。次回(最終稿)では、現場での無溶接接合の試みについて紹介したい。

参考資料

- 1) 脇山広三:高力ボルト接合(1)～(6), JSSC No.35～40, 2000.1～2001.4
- 2) 宇野暢芳、他:超高力ボルトSHTB、新日鉄技報387、2007
- 3) 曾田範宗:摩擦の話、岩波新書。1971
- 4) パウデン・テーバー／曾田範宗訳:個体の摩擦と潤滑、丸善株式会社、1961
- 5) 宇野暢芳、井上一郎、志村保美、脇山広三:硬さが異なる鋼材間の摩擦係数に関する基礎的研究、日本建築学会構造系論文集、第494号、pp.123～128、1997.4



第59回建築士会全国大会「大分大会」レポート

第59回建築士会全国大会「大分大会」が、おんせん県大分の別府市で開催されました。会場は別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザコンベンションホール。大分県出身の建築家・磯崎新氏による設計で、敷地内には「グローバルタワー」という高さ125mの展望塔があり、地上100mの高さにある展望デッキからは、360度の大パノラマを満喫できます。

テーマは「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」で地域の創生[おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵]

まず、式典前に、iichikoアートディレクター：河北秀也氏と「本格焼酎いいちこ」醸造元、三和酒類(株)取締役名誉会長：西太一郎氏による記念講演「どうしたらもっと幸せになれるか、それを考えるのがデザイン」、氏の撮った世界各地の芸術的写真スライドを見ながらの講演でした。

午後3時、オープニングパフォーマンスとして日本文理大学チアリーディング部「BRAVES」の華麗な演技に、「元気」「勇気」「感動」を体験し大会式典の始まりでした。



大分県建築士会副会長の幸勝美氏の開会宣言、国歌斉唱・物故者追悼・主催者である日本建築士会連合会会長 三井所清典氏の挨拶、来賓祝辞・国土交通省 石井啓一様、大分県知事 広瀬勝貞様、別府市長 長野恭紘様、会場来賓者紹介、祝電披露、主催者参加者紹介（ブロック、連合会役員等の紹介）と続きました。

表彰式では①功労者連合会・会長表彰 ②伝統的技能者表彰 ③連合会賞表彰 ④連合会まちづくり賞表彰 ⑤地



域実践活動表彰が行われ、我が奈良県建築士会から①連合会会長賞表彰に坪岡秀明氏、戸尾正明氏 ②伝統的技能者表彰に山本吉治氏 ④連合会まちづくり賞優秀賞表彰に「今井町の歴史的町並みの保存活用」橿原支部、3名と1支部が表彰されました。

式典も後半に入り、大分県建築士会会長 井上正文氏・日本建築士会連合会副会長 岡本森廣氏とで、「大会アピール宣言」の朗読

一、熊本地震の復興推進に被災地と共に取組み、さらに各地域で減災対策の強化等自治体との官民連携事業を拡大・推進する。

一、私たち建築士会会員は、常に技術の研鑽に努め、多様な社会の要請に的確に応え、培った専門性を地域の再生に発揮する。

一、開かれた建築士会として、更に多くの会員獲得に努める。



最後に次回開催の第60回建築士会全国大会「京都大会」京都府建築士会への大会旗の引き継ぎが行われ（大分士会⇒連合会⇒京都市会）、次期開催地・京都府建築士会会長 後藤照夫氏のご挨拶。大分県建築士会副会長の閉会の挨拶で式典は終了しました。

式典後は奈良県建築士会会員での懇親会が行われ盛会に行われました。



（記・桜井支部 松尾憲治）



青年委員会

第7回建築士フォーラム in 大分

第59回建築士会全国大会大分大会前日に行われた「第7回建築士フォーラム in 大分」から青年委員会は参加しました。全国の建築士会の青年層が集まり「『魅力ある未来社会へ』行動しなければ何も変わらない」をテーマに、二部構成で発表、その後ディスカッションが行われました。



第一部は「平成26年度全国青年委員長会議で掲げた目標の成果発表・報告会」とし、各ブロックの発表者が各々で掲げた事業に対する目標（人数など具体的数値）とその達成率、達成に至るまでのプロセスを発表しました。具体的に目標を立てることで共通の認識をもちそれぞれが目標達成に向けて取り組めるのでわかりやすいと感じました。その後のディスカッション内で他の建築士会会員たちと目標達成に向けての今後の改善点や意見交換などを行いました。



第二部は先の熊本地震の現況報告から「災害時、私たち建築士にできること」と題し、福島、兵庫、熊本の各建築士会青年委員がパネルディスカッションを行いました。大地震が起こった中で何が出来るか、実際は行政も建築士会会館もダメージを受け指示系統がうまく働かず、誤解が生じるなど連携の体制の確立の難しさを感じました。応急危険度判定士など建築士は震災時とその後の復興に深く関わっていくことなので大変有意義なディスカッションでした。

懇親会は各ブロックのPR、次年度の全国大会京都大会のPRなどが行われ、久々の全国の仲間との交流を行い和やかな会となりました。

翌日の本大会では、青年委員会は交流セッション「地域実践活動報告」に参加し、各ブロックの事業報告、問題点などの報告をうけ、その後ディスカッションを行いました。



地域の自治体との連携、会員の活動の参加率の向上、空き家調査、子ども向けイベントなど各ブロック各々特徴のある事業で大変興味深かったです。



ディスカッションではやはり事業の参加者をいかに募るのか、協力体制などといった問題点があげられ、それに対する意見交換が行われました。奈良県でも同様の問題があるので色々質問させて頂きました。



今回は九州と遠方でしたが、貴重な発表を聞き、新たな人との交流も生まれ刺激ある大会でした。

（記・青年委員会 谷 幸治）



女性委員会 連合会女性委員会セッション 「和室の魅力を次世代に引き継ぐ」

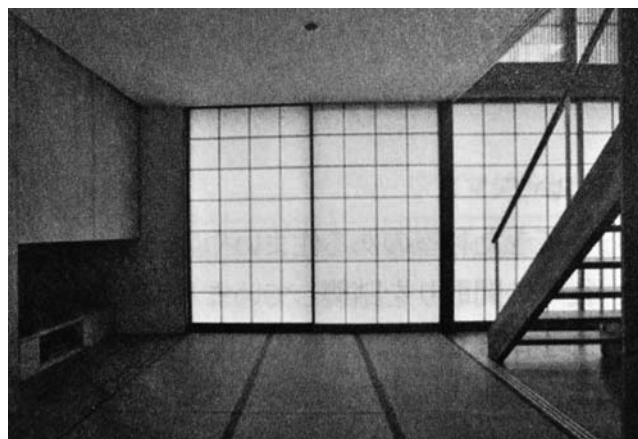
この夏に奈良で開催された第26回全国女性委員会連絡協議会（全建女）では、先人の知恵と工夫を見つめなおし、美しい住まいのあり様を次の世代に引き継ぐことについて協議をしました。今回の全国大会では全建女のテーマを引き継ぎ、大会のキーワード“地域の創生”をベースとして「日本の暮らしのあり方」について考えるセッションが行われました。最初に全建女（奈良）での基調講演（テーマ：「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」女性力で「発見」から「創造」へ 講師：渡辺光雄名誉教授（岐阜大学））と、同テーマのパネルディスカッションについて報告がされました。全建女で発表した「和室に関するアンケート調査」について、その後も調査を継続され（回答者総数1072名）最終的な結果が報告されました。設問のうち“居間における起居様式”の回答は、椅子の暮らしが一般的となっている現代の住まいにおいても「床座」（床に座って過ごしている）が過半を超える現状が明らかになりました。

そのあとパネリスト3名により「日本の暮らしのあり方」について発表されました。



一人目の藤山久仁子氏（奈良）は「伝統的和室」をテーマに、伝統的な和の建物、町家、茶室、特徴的な伝統意匠や様式について発表されました。奈良県の女性委員会では16年にわたり奈良県内の茶室の調査をして3冊の本をまとめられたことも紹介されました。町家等の茶室に見られる広間の書院付茶室、瀟洒な材料を使い「粋さ」で客人をもてなしたこと、また草庵茶

室の「侘び」の精神性と意匠についても紹介されました。美しい和室や意匠の写真とともに様々な手法についての紹介をされると、会場ではメモを取っている方が多くおられ、関心の高さを感じました。二人目の山中路代氏（富山）は「地域性を活かした砺波の散居村の住まい」について発表されました。砺波平野の扇状地の広い田園地帯で「カイニョ」と呼ばれる屋敷林（防風・防雪・夏場の日射遮蔽の為）に囲まれた住居が点在する風景は、地域独自の風景を形成しています。黒瓦葺き東向き妻入りのアズマダチの建物は、2本の大黒柱に直径60cm程のウシと呼ばれる梁が渡り、その上に直行して2本の梁が掛けられる頑丈な構造で空間が構成されており、柱と柱の間には1尺以上ある差し鴨居が通る形式は「ワクノウチ」と呼ばれているとのことでした。散居における現代の暮らし方や、現代のアズマダチ（建替え新築）についても紹介されました。三人目の多羅尾直子氏（東京）は「モダンな和室の可能性」をテーマに、都市型住居における魅力的な和室についての設計事例等を紹介され、居間続き等の開放的な和室と分節された和室の良さについても報告されました。



和室離れが進む中、設計者自身が和室の良さを知り、和のテイストや素材の使い方など「和」の解釈を深めることが今後の展開につながると締めくくられました。

（記・生駒支部 岩城由里子）



第59回建築士会全国大会大分大会等に参加して

第9回まちづくり選考会及び第59回建築士会全国大会大分大会に参加いたしましたので概要を報告いたします。

まちづくり賞は、(公社)日本建築士会連合会の事業で、今年で9回となります。目的は、建築士及び建築士会がその専門性を発揮して行う市民型まちづくり活動等を評価・表彰することにより、それが地域まちづくりを推進しようとするものです。



まちづくり選考会会場風景

今年4月～5月に募集され、21件の応募があり、8月に行われた第一次選考会により選考された8件の活動について、10月21日、公開により活動団体からのプレゼンテーションと審査会がありました。まちづくり大賞には、広島県の東新会の「町並み景観&歴史的建造物を甦らせるプロジェクト」活動が選ばれ、優秀賞には奈良県建築士会橿原支部の「今井町の歴史的町並みの保存活用事例」と(公社)大分県建築士会臼杵支部の「城下町臼杵での町並み景観の維持保全・再生に向けたまちづくりの取り組み」が選ばれました。



橿原支部が優秀賞を受賞

翌日22日午前には、街中(空き家)セッションが行われました。まず、日本建築士会連合会「空き家部会」の活動報告がありました。その後、才本謙二氏より、丹波篠山「集落丸山」、市原正人氏より、那古野下町衆空き店舗対策プロジェクトの2つの事例報告がありました。そして、「他人事ではない空き家活用」をテーマに、規制緩和、マッチング、業務と成れるか、活用の改修手法などをキーワードにクロストークが行われました。

午後からは、歴史まちづくりセッションが行われました。まちづくり大賞候補より近畿ブロック、中四国ブロック、九州ブロックからの3事例の報告でしたが、奇しくもまちづくり大賞、優秀賞をとった3事例となりました。その後、歴まちミニトークとして、事例報告者3名と会場全員により、歴史まちづくり活動における課題と展望、維持・保存・活用をテーマに実施されました。最後に、このセッションを機会に、全国での歴まち活動の新たな展開やその活動推進の仲間づくりのキックオフ会と位置づけられ、参加者全員の集合写真を取り終了となりました。

(記・橿原支部 米村博昭)

平成28年度 日本建築士会連合会会長表彰・伝統的技能者表彰

—第59回建築士会全国大会大分大会にて—

■奈良支部 戸尾正明氏より

この度は、日本建築士会連合会長賞を頂き身に余る光栄と感謝いたしております。誠にありがとうございました。

私は、昭和48年に奈良市役所に奉職し、昭和54年に一級建築士となり、37年間奈良市の建築行政に携わってまいりました。

昭和57年に建築士会とご縁を頂き入会させていただきましたが、行政の仕事の多忙もあり、活動にはなかなか参加できず、名前ばかりの会員でした。

奉職中には、耐震偽装の問題が起こり奈良市内においても該当する事案があり、奔走いたしました事が深く記憶に残っております。また、阪神大震災後の取り組みとしての住宅の耐震診断で、行政と建築士会奈良支部とのつながりが深まっていたように思います。

平成22年に一年早く退職し、自分で建築設計事務所を設立し仕事を始めてからは、多くの建築士会の皆様のご指導を頂き、新しい世界に戸惑いながらも行政で培った建築への思いを胸に頑張らせていただいております。建築士会の総務委員として名前を連ねながらなかなか参加できない私に、この様な名誉な賞に推薦していただいた奈良支部の皆様深くお礼申し上げます。

また、奈良支部の顧問として微力ではございますが、今後も建築士会の発展のために働かせていただく所存です。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

■橿原支部 坪岡秀明氏より

この度は、日本建築士会連合会長表彰を受賞いたしましたこと、光栄の至りに存じます。多くの功績を挙げておられる諸先輩をさしおいて受賞し心苦しく思っております。

建築関係に従事して50余年、当初大阪府建築士会に所属し、後に奈良県建築士会に移行して40数年を経過しようとしています。この間建築士試験業務委員会に所属し委員長時代には試験業務の委託先である（財）建築技術教育普及センターにも多くの協議を行って来ました。

受付業務における、受験資格期間での問題や、試験当日、数社の受験産業の業者がPRのために数十名のアルバイト要員が試験場周辺にたむろした為、近隣住民よりの苦情により翌年からの試験場の使用が困難になる等の対応などは、今考えると懐かしい思い出です。

本部・支部の理事も拝命してきましたが、この間奈良県建築物安全安心協議会副委員長、民間確認機関設立準備委員会、他裁判所関係の用件のために名前だけの役職であったように思われます。今回の受賞に際し、推薦して頂いた方々に御礼申し上げます。

これからも建築士会発展の為微力ではありますが働かせて戴く所存ですので、皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。建築士会の益々のご発展をお祈りいたします。

■(株)山本工務店 山本吉治氏より

大分県で開催された第57回全国大会において、名誉ある「伝統的技能者表彰」をいただき、ありがとうございました。初めて大会に参加して、会場に満ち溢れる活気に、このエネルギーが全国で活躍されている建築士の皆様のものづくりの原点であると感じました。

私は、「大阪夏の陣」が終わったところから代々大工を生業にしている家に生まれました。神社、お寺、古民家、一般住宅と、幅広く携わらせていただく中で、人の寿命を遥かに超える建物を造っていく責任を重く感じています。代々受け継がれてきた伝統的な工法を守り、技術を正しく伝えていきたいと考えています。また一方、そこに住んでいる方との良いお付き合いがなければ、建物を守っていくことができません。これから大工職をめざす弟子たちには、伝統的な木組みや、木の癖の見方などの技術的な面は当たり前ですが、人間として忘れてはいけない礼儀、義理、人情なども正しく伝えていきたいと考えています。

長年のお付き合いをいただいているお施主様はもとより、初めての方でも、毎日現場で作業させていただいていると、密度の濃い人間関係が生まれます。良い仕事をさせていただくためには、この信頼関係がとても大切です。設計と施工の間も同様で、いままで、何度も外部の建築士の方と一緒に仕事をさせていただいた事がありましたが、図面を頂戴しただけでは、なかなか設計者の意図を掴むことができなかったり、細部の納まりに疑問が出たりします。綿密な意思疎通と、信頼関係が一番重要であったと感じています。今後とも精進してまいりますので、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



戸尾正明氏



坪岡秀明氏



山本吉治氏



地域交流見学会

第59回建築士会全国大会大分大会の地域交流見学会（エクスカーション）Bコース「杵築の町並みと1300年の歴史先達・天台宗住職と巡る国東半島特別参拝ツアー」参加しました。

「杵築の城下町」

大分市と別府湾を挟み国東半島の南端部に位置する杵築市。江戸時代から600年以上この町を見守ってきた杵築城と、その目下に広がる“小京都”として名高い海辺の城下町の、武家屋敷や石畳の坂道の景色が特徴的です。これらは現代に再現・復元されたものではなく、当時の姿のまま残されているようで、作られた街並みとは違った美しさと、日本人の心を和ませる不思議な魅力を持っています。町中には大小合わせて20本近くの坂道が残されており、よく知られている「塩屋の坂と酢屋の坂」、これら二つの坂は谷町通りを挟み向かいあうように一直線に結ばれています。杵築城を中心に据え、それぞれの坂の上、南北の高台に屋敷を構える武士たちは、その谷あいでも商いをする商人たちの町を挟むように暮らしていたのです。塩屋の坂から振り返るようにして酢屋の坂を眺めてみると、凹凸のある形状がまさに“サンドイッチ型城下町” 武家屋敷やその茅葺屋根、そして町家の家並みに白壁、石垣、竹林と、貴重なこれらの景色は映画やドラマにもたびたび登場しているそうです。

「富貴寺」

富貴寺大堂は、近畿地方以外に所在する数少ない平安建築のひとつ、養老2年（718年）伝聞菩薩創建という天台宗の古刹。国宝の建築です。正面3間・側面4間で回縁があり、屋根は宝形造で筋くれ立つ竹を並べたような行基葺。壁部はすべてカヤの白木が用いられ、内部は板敷・格天井で、中央の4本の柱をはじめ極彩色の絵画の跡が残っています。1952年11月22日に国宝に指定されています。富貴寺のある国東半島は、神仏習合の信仰形態をもつ宇佐八幡と関係の深い土地で、古くから仏教文化が栄えていました。仁聞の開創、仁聞はほとんど伝説のなかの人物で、国東半島に28の寺院を開創し、6万9千体の仏像を



杵築町のポスターより

造ったといわれています。国東半島一帯にある仁聞関連の寺院を総称して「六郷山」といっています。



「豊後高田市 昭和の町」

江戸時代から昭和30年にかけて国東半島で、一番栄えた町でしたが、徐々に廃れていきました。豊後高田「昭和の町」は、商店街が全盛期だった昭和30年代の賑わいをもう一度よみがえらせようという願いを込めた場所です。平成13年に商店、商工会議所、行政が一体となって取り組んだ“まちづくり”の集大成です。

「文殊仙寺」にて特別護摩供養を体験

大化4年（648年）役行者の創建と伝えられる日本三文殊の一つです。境内からは瀬戸内海が一望でき、「3人寄れば文殊の知恵」の知恵の母と知られる文殊菩薩は岩山と文殊仙寺が一体化されている奥の院に安置されています。奥の院の本尊文殊菩薩は12年に一度しか公開されません。我々は特別護摩供養を体験させて頂きました。



特別護摩供養を体験させて頂いた後、大分空港、別府北浜、大分駅前と順次解散となりました。私たちは大分空港で解散し夕刻の便で機上の人となりました。

（記・桜井支部 松尾憲治）



橿原支部

奈良県建築士会橿原支部30周年記念式典



橿原支部は12月6日、支部設立30周年記念式典をかしは万葉ホールで開催しました。

昭和61年11月に桜井支部から分離独立して橿原支部が設立されました。初代支部長に嵯山定男氏、二代は猪飼悟氏、三代は小田清氏、四代は中上博功氏が務めました。岡田則夫支部長で五代目になり支部会員140名で、賛与会員は38社です。

役員は支部長、副支部長3名、会計、幹事2名、理事22名で総務委員会、事業委員会、広報委員会、女性委員会、青年委員会を構成して各種活動をおこなっています。

発足当時から行政と協働で耐震化の推進、建築・住宅相談事業、歴史的町並みの保存活動や町づくりにとりくみ、今年10月に大分県で開催された第59回建築士会全国大会（大分大会）において「今井町の歴史的町並みの保存活用」がまちづくり優秀賞を受賞しました。



上辻仁副支部長



米村博昭事業実行委員長

式典は上辻仁副支部長の開式の辞で始まり、米村博昭30周年記念事業実行委員長は、この事業は橿原市制60周年協賛事業として開催する趣旨を述べました。



岡田則夫支部長

支部長挨拶、岡田則夫支部長は「支部設立当時から橿原市に対し、今井町の町並みの保存の推進を申し入れるという先進的な取り組みを行ってこられた先輩諸氏の先見性に頭が下がる思いです。橿原市

と姉妹都市の宮崎県建築士会宮崎支部との交流も活発で学校への出前講座を行っています。士会本部や10支部との連携も重要であり、支部独自の各種研修や各種団体との交流、意見交換を通じて会員の資質の向上と研鑽に努めたい」と挨拶がありました。

来賓祝辞

荒井正吾知事の代理で出席された武田光哲課長は「長年培ってこられた優れた専門知識と技術をもって、県民が安全で安心して暮らせるようにご協力を」と述べられました。

岡崎益光橿原市副市長は「橿原支部の皆さんと行政は連携したまちづくりを進めてきた。今後も災害に強いまちづくりをすすめましょう」と挨拶されました。

堀井巖議員は「歴史的建築物の保存活用や地域材を使った建築物の要望は密接に繋がっている。制度や法令に係わる業界なので法整備に努めたい」。佐藤啓議員は「過疎地域でも若い世代が入りやすい業界の環境づくりに頑張ってほしい」。橿原市議会の竹田裕彦副議長は「空き家対策に取り組んで頂いている。新築から中古物件へと変化する中、建築士の皆さんの職能を生かした活躍に期待している」。山本進章県議は、「県と橿原市で進めている包括協定や基本協定、個別協定を進める中で良きアドバイスを頂きたい」と挨拶されました。

洲上徳光奈良県建築士会会長は「大地震をはじめとする自然災害が重なる中、建築士の見地から防災減殺を再認識しなければならない。30周年を契機に地域に密着した活動をお願いします」と挨拶されました。

宮崎県建築士会宮崎支部長、野田一考氏は「平成21年に中上支部長（当時）からお話いただいたのがきっかけで交流が深まり8年が経過しました。これからも橿原支部と宮崎支部の交流が末永く続くことを願っています」と挨拶されました。

「橿原支部30周年の歩み」

橿原支部の発足 昭和62年12月に今井町の町並み保存の推進に協力することを文書にて申し入れる。

今井町歴史的町並みの研修と啓発活動。東京芸術大学前野まさる教授の講演会を開催以後数年間は文化財に指定されている建築物について研修を継続して実施する。



中西治夫事業委員長

モデル設計へ 平成元年、橿原市より「今井町の修理・修景のモデル設計」の依頼。平成2年奈良県建築士会のなかに「町並保存対策特別委員会」の設置。今井町町並み保存にかかる建造物の修理・修景について、外観は伝統的様式を踏襲し、内部は現代的な生活に適して、独立建、長屋建て、店舗付き住宅の3タイプ設計し、住民にわかりやすく提示する。

重伝建地区に選定 1993年（平成5年12月8日）に文化財保護法による重要伝統的建造物群保存地区に指定される。保存地区の面積約17.4ヘクタール。種別、寺内町・在郷町。保存物件数、建築物504件、工作物119件。

防災と早期復旧 橿原市は平成7年度に今井町総合防災計画を策定。「今井町防災会」に建築士会の会員も参画する。台風7号による風害調査、平成10年9月、橿原市より「台風7号による風害の被害状況の調査業務」を受託する。

景観から空家問題へ 平成16年財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団助成金により「今井町における景観形成の推進のための調査」を実施した。橿原支部に「今井町における伝統的町屋の再生・活用研究会」設置、渡辺定夫東京大学名誉教授に顧問をお願いし、奈良まちづくりセンター、奈良女子大学学生等の参画により調査を行う。空家の再生モデル設計案の作成及び公開展。

NPOの設立 平成18年3月18日、空き家対策を行うため「NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク」の設立総会が開催され、橿原支部から3人が理事に選出された。

伝建地区での活動1 今井町東地区小規模住宅改良事業における改良住宅の改修のための現状調査（平成17年12月）。サブリース事業（空き家等活用事業）平成19・20年度橿原支部の会員が担当。橿原市より「今井町伝統的建造物群整備改修建物調査等業務」を受託し、独立型、長屋型の建物について修理の必要性や老朽度の大小及び修理の度合いを調査する。（平成19年）

伝建地区での活動2 地域住宅モデル普及推進事業（生活体験施設今井庵の整備事業）平成21・22年度。大和・町屋バンクネットワーク協議会の設立と運営。

町屋の利活用 全国町並みゼミかしはら今井大会（平成15年9月）。第4回全国町屋再生交流会 in 今井町（平成23年）。新しい町屋利活用へ（空き家等対策法の運用・福祉や医学を基礎としたまちづくり）。

MBT Medicine-Based Town（医学を基礎としたまちづくり）

以上、中西治夫事業委員長より報告がありました。

功労者表彰 小田清氏、梶谷文二氏、中上博功氏、村田良彦氏の功労者4人に感謝状が贈られ代表して小田清元支部長より「橿原支部長を務めてこれたのは、皆様のおかげ、橿原支部の発展を心から願います」と挨拶されました。



基調講演 細井裕司奈良県立医科大学理事長・学長から「医学を基礎とするまちづくり」(MBT)をテーマに医大周辺のまちづくりに医学の知恵MBE (Medicine-Based Engineering) を注ぎ込んで付加価値の高い「MBT」を作る。この過程が新産業創生、地方創生の原動力となり、医学をまちづくりや産業に生かしている、新しい試みである」と講演がありました。



祝宴に移り榎本利明理事の挨拶に続き、竹上由美理事の健康体操でリラックスした後、事務所協会の植村会長の発声で乾杯し勝美会の琴の演奏を聴きながら和やかな輪が持たれ、寄山雅由副支部長が閉会の辞を述べ、一本締めで祝宴を締めくくりました。



榎本利明理事



寄山雅由副支部長



竹上由美理事



基調講演

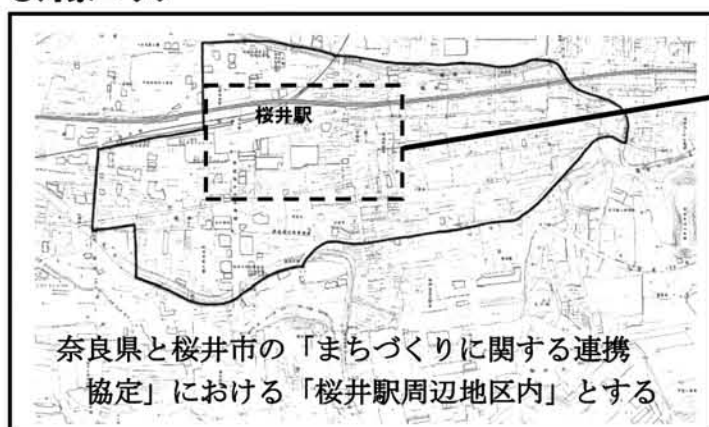
(記・橿原支部 福西保夫)

＜まちづくり事業化 一桜井駅周辺地区＞

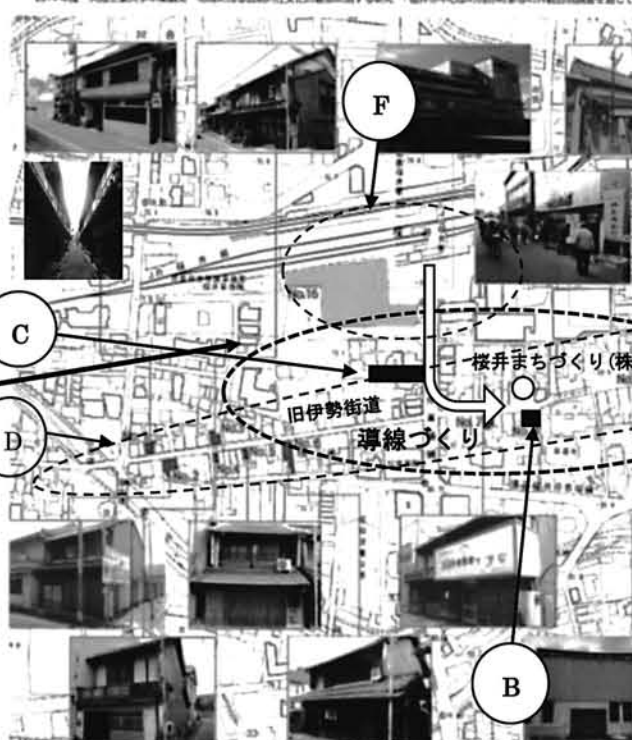
コンセプト；「らしさ」を活かす「木」を活かす
ターゲット；住民⇒ 子育て世代の母親層 来訪者

当エリアでは、平成 26 年 7 月～平成 28 年 6 月、桜井市副市長を座長とする官民プラットフォームな検討会議を重ね、将来ビジョンとしてまとめた提言書が、桜井市長に手渡されました。その結果、平成 28 年 6 月に桜井まちづくり株式会社が設立され、同まちづくり会社が同年 9 月に桜井市より都市再生推進法人の指定を受けました。これから、地域の価値を維持、向上させることを目的に、地域資源を有効活用し、経済効果が生まれるまちづくり活動を実践するエリアマネジメント事業を具体的に展開していく新たな年となります。引き続き、建築士会の皆様方のご協力よろしくお願いします。

○対象エリア



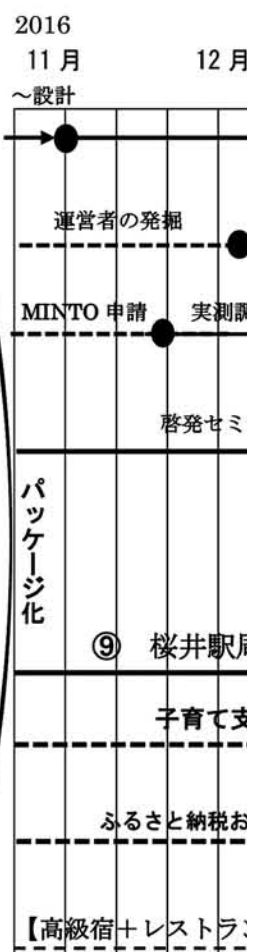
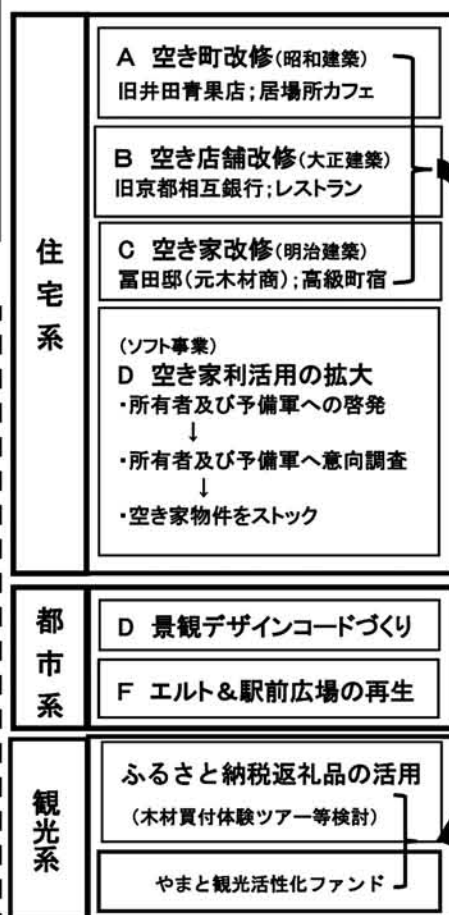
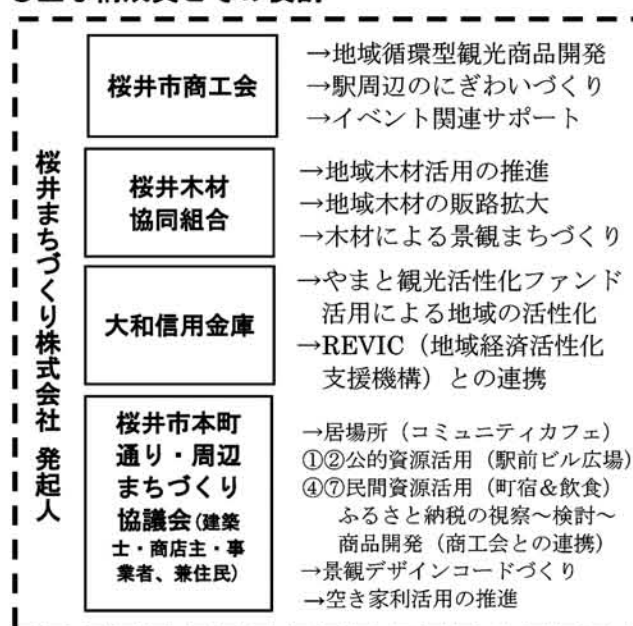
2-3 旧伊勢街道沿いの建物状況調査 空き家・空き店舗ブレイスマイキング事例
2014 年度 大阪工業大学卒業論文 地域に活かす伝統的住文化の継承に関する研究 桜井市中心的部の旧伊勢街道の外観空間調査を通して



○主な事業内容

- 公共（エルトと駅前広場）・民間（空き家、空き店舗）・景観資源（町家など歴史的文化遺産、木材等の素材）活用による地域の活性化
- 桜井駅南エリアのエリアマネジメント
- 賑わい交流の創出（居場所&コミュニティづくり）
- 地域循環型観光商品開発（食と宿とスピリチュア）

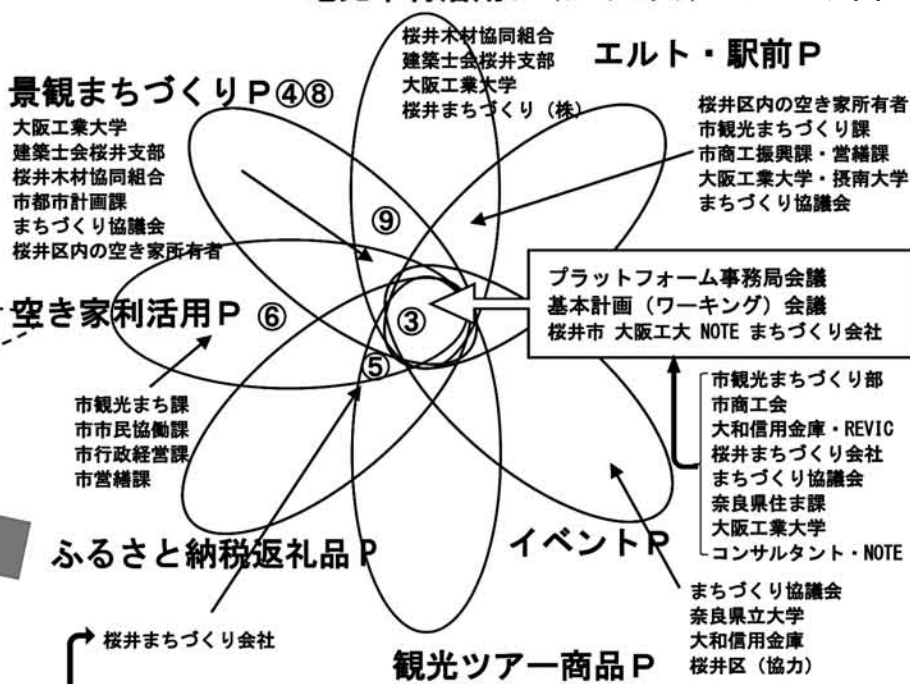
○主な構成員とその役割



小西橋から越前橋までの、市道沿道にあり「空き家を等価換算の活用事業タイプ」に当てはまるであろう16軒、すでにプレイングされてある3軒を地図上に示した。

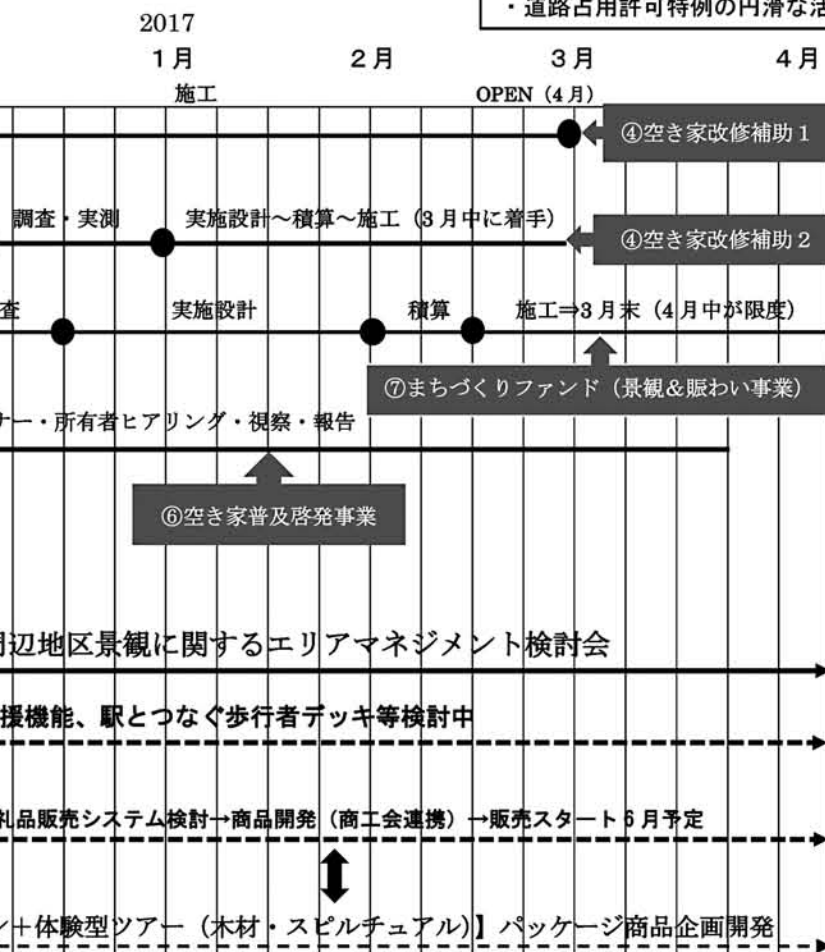


地元木材活用P (プロジェクト) イメージ図



都市再生推進法人制度の活用

- ・国の補助制度、金融支援の活用 ⇒ 民都機構、REVIC (人的サポートも可)
- ・都市再生整備計画の提案権を付与 ⇒ 公共空間の活用・管理を提案できる
- ・道路占用許可特例の円滑な活用 ⇒ 駅前広場・歩道の活用可能 (集客増)



主なまちづくり支援メニュー

- ① 先導的官民連携支援事業導入前調査
予算約 100 万円 エルト手法検討会
 - ② 桜井駅周辺地区にぎわい創出事業
予算: 2000 万円 エルト手法検討会
 - ③ 桜井駅周辺地区まちづくり基本構想
予算: 約 1100 万円 まちづくり連絡会
 - ④ 空き家改修補助 (2 件)
まちづくり会社の資金←REVIC 関与)
予算: 約 ¥8800 万 (民負担 1/3)
 - ⑦ まちづくりファンド組成支援
予算: ¥3000 万 (民負担 1/3)
MINTO 機構 (まちづくり拠点整備ファンド)
 - ⑥ 空き家普及啓発事業 予算: 約 500 万円
受託者: 桜井まちづくり株式会社
協力者: 大阪工業大学
協力者: NPO 法人空き家コンシェルジュ
- 桜井駅周辺地区景観デザインコード
作成事業 (桜井市景観啓発事業)
予算: 約 450 万円 大学とコンサルタント



郡山支部

「第42回親子まつり」レポート

11月3日、郡山城跡では『第42回目 親子まつり』が開催されました。文化の日の恒例行事に、郡山支部は平成11年から毎年参加し、クラフトコーナーと建築相談を行っています。

今年度の支部は事業に取り組むにあたり、他支部や各委員会と連携することによって交流を図り、支部活動の今後の糧にしたいと考えていました。10月に開催した神戸方面への研修旅行もその一環です。

親子まつりについては、子どもを対象としたものも含めて数多くの事業を手掛けている青年委員会との協働事業とすることはできないかと考えました。青年委員会に所属する支部メンバーから協働の可能性について打診したところ、青年委員会では11月初旬に次世代育成事業を単独で実施の予定であったため、双方の事業を『親子まつり』という場で協働実施することとなりました。

当日は快晴で、絵に描いたようなイベント日和。朝一番で会場を設営し、自己紹介と簡単な打合せを終えた開会直前に記念撮影を行いました。



今年度のクラフトコーナーでは、青年委員会の事業で毎回好評のプログラムである『木のパズル』と『木くず風呂』を提供することになりました。

『木のパズル』とは、6つのパーツを組み合わせるとひとつの立方体になるパズルを作成するもので、参加してくれた子ども達には、27個のサイコロから木工ボンドなどを使って6つのパーツを作成してもらいます。

親子まつり当日を迎える前には、青年委員会から『木のパズル』の完成サンプルをお借りして、実際に立方体を組み立ててみましたが、大人4人がかりで取り組むも、思いのほか難しく、6つのパーツに不備がないにも関わらず不思議な形が出来る始末。



親子まつりの当日に、クラフトコーナーを運営しながら青年委員会のみなさんから組み立て方のコツを教えてもらえると、なるほど簡単に組み立てることが出来ます。その「組み立てのコツ」は子ども達が『木のパズル』をつくる際のヒントとなり、途中で挫折することなくクラフトを楽しめる要素であることを知りました。

青年委員会のみなさんの子ども達との接し方は、さすがに慣れたもので、支部メンバーは感心しきり。



最初は子ども達にどのように接すればよいのか戸惑い気味だった支部メンバーも、徐々にコツを掴んでいきました。



親子まつりは毎年、多くの来場者で賑わいます。建築士会のブースにも多くの人が訪れるため、クラフトの材料も出来るだけ多く用意するようにしてきました。今年は100セットを用意しましたが、閉会時間の1時間前にはすべてなくなってしまうほどの盛況でした。

『木のパズル』はサイコロ27個で1セットですから、用意するサイコロの総数は2,700個になりました。製材所で作製してもらったサイコロには角にバリのあるものが多いため、参加者が怪我をしないように事前に紙ヤスリでバリを削ります。支部メンバーの多くは親子まつり当日に会場ブースの後方にて、そのバリ取り作業にあたりました。しかし、その処理する個数の多さと、押し寄せる来場者の多さで材料提供が追いつきません。すぐに青年委員会メンバーの応援を得て、みんなで必死のバリ取り作業となりました。



この日は時間の関係で、必要最低限のヤスリ掛けしか行えませんでした。その作業中には青年委員会と支部のメンバーが雑談の中で、「すべての角にヤスリを掛けて柿渋などで着色すると、見た目も肌触りも良い素敵な木製玩具になるよね」という話をしていました。こういう手間は惜しまず行いたいものです。親子まつり前日までの準備段階でこの作業をしておいてもよかったな、と反省材料になりました。



クラフトコーナーでは子ども達が『木のパズル』づくりに夢中で、裏方作業は嬉しい悲鳴の忙しさ、会場ブースは終始、活気に満ち溢れていました。

クラフトコーナーの隣で行った『木くず風呂』では、浴槽に見立てた大きな木箱の中にヒノキのカンナくずをたっぷり入れて、全身で木の香りや感触を楽しんでもらいました。



爽やかな秋空の下、青年委員会との協働事業として参加した親子まつりは無事に閉幕を迎えることが出来ました。

郡山支部では今後も積極的に連携・交流に取り組み、事業活動に新たな視点を得て、地域との関わり、地域への貢献につなげていくことが出来ればと考えています。



(記・郡山支部 何左昌範)



高田支部

『結いの心マルシェ in 大和高田 出展事業 折り紙建築体験ブース』のご報告

開催日 2016年10月16日(日) 時 間 11:00~15:00
場 所 専立寺(大和高田市)



(一社)葛城青年会議所が主催する「結いの心マルシェ in 大和高田」に日頃より考えている「地域の皆様とかかわりを深め建築士会の活動、存在をPRする」ために(一社)奈良県建築士会高田支部、(一財)なら住宅センターとの共同事業にて参加させて頂きました。

折り紙建築家茶谷正洋氏の著書を参考にし、建築士による折り紙建築と称して小学校中学年から中高生にむけて建築に親しんで頂く企画としました。

奈良にちなんだ建築物(薬師寺東塔、東大寺大仏殿)や馴染みのもの(自由の女神など)を選定しより親しみやすくし、サンプル制作を幾度か行い、対象学年にあわせて数案用意しました。



準備の際に刃物を使うため指導の入念な打ち合わせを行い。怪我の無いようにスタッフ一同で細心の注意を払いました。



当日は天候にも恵まれ、学生ボランティアの協力もあり、42名の方に体験して頂きました。子どもたちは真剣にカッターを使い切り抜いていました。気がつけば親がやっているシーンも見られ、親子の共同作業になっていました。切るのとは何かなるのですが、意外にも山折り、谷折りの折る作業に苦戦していました。サンプルを見ながら進めると分かりやすかったのですが、数が足りなかったため今後はサンプルを増やして対応したいと思います。夢中になっている子供を見ている間に保護者の方に建築士会を知って頂けるようにパネル展示を併せて行いました。



完成後は撮影ブースを用意し、スマートフォンなどで撮影して頂きました。家でも別案を挑戦したいという熱心な子どももいました。一枚の紙から立体が生まれる。子どもも大人も感心していました。建築に興味を持つ一つの窓口になったのではないかと思います。

事業に携わって頂きました皆様に改めて御礼申し上げます。
(高田支部 谷 幸治)



桜井支部

中南和六支部合同ゴルフコンペ・親睦会

この度、平成28年11月11日（金）に中南和六支部（橿原、高田、五条、吉野、宇陀、桜井）合同コンペを阿騎野ゴルフ倶楽部にて実施いたしましたので、下記の通りご報告いたします。

記

阿騎野ゴルフ倶楽部 7時49分スタートで、アウト・イン共で10組39名の参加でした。スタート前に、事務局の宇陀支部西峯副支部長、桜井支部森田相談役の挨拶があり、記念撮影後、それぞれに分かれてプレーをいたしました。

当日は、晴れ間が出て穏やかな天候でした。売店で天候を尋ねると、昨日は天候が悪く寒かったそうです。多分、幹事の方の意思が伝わり、いいお天気になったと思います。ただ、天気予報が当初、悪い情報でしたので、インのカップの場所が難しく馬の背の状態でしたので、私は苦労しました。

私と同じメンバーの方は、プレーを楽しむ方で、柔軟なスイング、ロングパットを決められる方、お酒を頂きランニングをされる方等、余裕のあるプレーで楽しませていました。

また、プレーをされない支部長はミーティング時から、参加されましたので、六支部の親睦と情報交換で盛り上がり、親近感のある有意義なコンペでした。

私自身ゴルフ歴は、長いのですがこの8年間は休業中でした。これを機会に復活するつもりです。ご迷惑をおかけしますが宜しくお願いいたします。

（記・桜井支部副支部長 藤浪 通）





明けましておめでとうございます 奈良県立高等技術専門校です

平素より奈良県立高等技術専門校の業務推進にあたり、格別のご支援ご協力をいただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

昨年度、当校が貴建築士会を訪問し、当校建築科の講師派遣について、会長をはじめ関係者の皆様にご協力をお願い致しましたところ、快く引き受けていただきました。

そして今年度、貴会からご配慮賜りました講師の先生のご尽力により、学科及びCADなどの分野で科目の拡充が実現するとともに、建築科修了生が、2級建築士・木造建築士受験資格を取得するために必要な実務経験年数を3年（中卒者は5年）に短縮することが出来ました。紙面をお借りしまして重ねて感謝申し上げます。

さて、今回、このようなご縁で貴紙掲載の機会を与えていただきましたので、当校について紹介させていただきます。

当校は、今から70年近く前の戦後間もない昭和23年（1948年）、当時の職業安定法に基づく職業補導事業（戦災者、復員者、引揚者などの失業対策事業）によって、旧の訓練所が財団法人から県に移管され、奈良県立近畿総合公共職業補導所として奈良市で再出発したのが始まりです。戦後の壊滅的な経済状況の中、当初は復興のため、建築科・木工科を開設し、簡易な職業訓練を実施していました。

その後、昭和27年に高田公共職業補導所が、さらに、昭和31年に桜井公共職業補導所が設立され、昭和43年（1968年）には、これら、奈良・高田・桜井の各所が、現在地の磯城郡三宅町（近鉄橿原線石見駅前）へ移転・統合し、今日に至っています。

現在は、職業能力開発促進法に基づく県内で唯一の公共職業能力開発施設として、当校施設内で次の職業訓練を実施しております。

- 離退職者・未就職者及び新卒者の方を対象とした4月入校、期間1年の8コース（ITシステム科、家具工芸科、建築科、住宅設備科、服飾ビジネス科、オフィスビジネス科、ビルメンテナンス科、造園技術科）
（訓練生募集中・文末※参照）
- 知的障害のある方を対象とした4月入校、期間1年の販売実務科（訓練生募集中・文末※参照）
- 在職者の方を対象とした短期の「給水装置工事主任技術者試験講習会」

その他、当校の施設外訓練として、民間に委託して行う「短期の職業訓練」も実施しております。

続いて、当校の施設内訓練の中から、建設業界に関連のある、建築科と住宅設備科について紹介致します。

■建築科（期間1年）

前述のとおり、昨年度に比べ履修科目が拡充され、職業訓練修了生が、2級建築士・木造建築士受験資格を取得するために必要な実務経験年数を3年（中卒者は5年）に短縮することが出来ました。



模擬住宅建築実習



クレーン実習



内装実習



2次元CAD

学科は、軸組加工技術関係（規矩術、施工法、仕様積算、建築材料）、設計・施工・工事管理関係（建築計画、建築構造、建築法規、構造力学、建築製図及びCAD製図、測量など）を履修します。

実技は、木造建築物の加工用器具や木工機械の取り扱いの基本から始め、工作実習、模擬住宅建築実習、内装・外装実習などを行います。

在校中に取得を目指す資格は、前述の他、建築大工技能検定受験資格、木材加工用機械作業主任者（実務経験2年と講習受講が必要）、技能講習（フォークリフト、移動式クレーン、玉掛け）、特別教育（車両系建設機械）、刈払機作業安全衛生教育、DIYアドバイザー（実技試験免除）などです。

修了後の主な就職先は、建設業、内外装、リフォーム、設計・工事管理関連などの事業所です。

■住宅設備科（期間1年）



配管加工（ねじ切り）



ガス溶接練習作品

水道・空調設備（配管概論・配管施工法、冷暖房法、各種配管加工・修繕技術など）、ガス設備（液化石油ガス設備士講習（理論・法令、施工方法）、電気設備（第二種電気工事士試験対策、エアコン、照明器具などの取付実習）、関連実技（ガス溶接・アーク溶接、小型車両系建設機械・フォークリフト、製図（設備関連図面の作成、図面読み取り、CAD）など）を履修します。

在校中に取得を目指す資格は、液化石油ガス設備士講習、技能講習（ガス溶接、フォークリフト、玉掛け、移動式クレーン）、建築配管技能検定、特別教育（アーク溶接、小型車両系建設機械、酸素欠乏等危険作業）、刈払機作業安全衛生教育、第二種電気工事士、危険物取扱者（乙種4類）、消防設備士などです。



電気工事実習



特別教育

修了後の主な就職先は、建設業関連（上下水道設備、ガス設備、空調設備、電気設備、溶接関連）、設備管理業（病院・工場などのビル設備管理）などです。

最後に、職員一同努力し、これらの訓練を効果的に実施しながら、建設業界の皆様へ更に多くの修了生を送り出したいと考えております。

今後、なお一層のご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

（※）当校では、平成29年4月入校の職業訓練生を募集しています。応募書類受付期間は、第1回募集が平成29年1月5日（木）～2月2日（木）（販売実務科は1月10日（火）～1月23日（月））です。順次、第2回・第3回募集も予定しています。ご応募を希望される方は、事前に、居住地を管轄するハローワークで職業相談を受けて、応募について指示に従ってください（今春、中学・高校を卒業予定の方は不要です。直接当校にお申込みください）。各科の紹介や職業訓練生募集案内の詳細は、当校ホームページに掲載しています。



（URL <http://www.pref.nara.jp/1755.htm>）

●お問い合わせ、連絡先

奈良県立高等技術専門学校

住所：〒636-0212 奈良県磯城郡三宅町石見440

TEL：0745-44-0565 FAX：0745-44-1057



生駒支部

HUG（はぐ：避難所運営ゲーム）

11月26日 生駒支部 幹事会

軽トラのラジオと携帯電話の緊急地震速報が同時になり続けると、さすがに心臓の鼓動も早くなる。来るぞ来るぞと言われながらも、ふいをつかれるとこうなるのだという見本のようなものだった。どうしたらよいものかと、行動に迷いもあったが、現場への移動の途中でもあり、私が通った小学校である避難所の横を通りかかったので覗いてみた。生徒がいらない日だとはわかっていたが、先生は数人いるようだ。先生方も同じ被災者なので、ご家族のことも心配であろうが、災害時の対応の手引きに副って任務にあたっておられた。まだそんなに時間はたっていないのだが、すでに数人の、明らかに避難をしてこられた人たちが、不安な顔とともに体育館や校舎に身を寄せてこられたようだ。

私より少し若そうな夫婦と息子を連れた三人は、気の毒にも家屋は倒壊をしたそうだが、幸いにしつけがなかったようだ。年配の老夫婦が幼い子を連れているのは孫のようだ。どの程度かはわからないが、一部が損壊したらしい。被災者がどこからともなく表れた。想像をしていた光景だ。先生が体育館の扉を開けてくれた。ここの耐震改修は数年前に工事をしていたのを覚えている。建物は見る限りは大丈夫と言っていいだろう。入り口の横には跳び箱が蹴り飛ばされたように転がっていた。ドッジボールが散乱している。薄暗いのでスイッチを入れるが点かない。どうだろうと思って蛇口をひねった。出ない。窓越しに続々と人が来るのが見えた。腹をくくった。先生に身分を明かし、お手伝いを買って出たが、次々と来る人たちをこの体育館のどこへどう誘導したものか、わからない。床は冷たい。毛布は無いのかな。教室はどうなっているのだろう。支援物資はいくらかあるそうだが、どうやって配布をするのだろう。誰が仕切るのだ。もめるのは嫌だ。

お母さんが見あたらない子どもが、向かいの家の夫婦に連れられてきた。犬を引き連れている老人がいるが、一緒に中にいて良いのか。肩を抱えられている高齢の女性がいる。見るからに介護が必要なようだが、どうしたものか。床が冷たそうで気になる。うしろから、タバコはどこで吸えばいいのかと聞いてくるが、返事をする気にもならなかった。日本語ではないと思う言葉でなにかを言っている人がいる。運動場には車が見えた。誰だか知らないが、仕切っている人がいる。私の軽トラも誘導に従い移動する。

入口の横に受付のような場所をつくり始めた。先生が職員室から文房具や印刷用紙を持ってきた。連絡事項のようなことを書きだし、壁に張っている。自治会長さんが名乗り出てくれた様子である。いろんな現実とこれから想像することが頭をよぎる。この避難所は長期化しそうだ。

便所から人が出てきて流れないと叫んでいる。断水をしているだけなら、水さえあれば流れるかもしれない。「大」が山盛りになる前になんとかしなくてはならない。使用禁止にするのか。いやいや、それは報道で知っている。阪神淡路大震災の時のニュースで見た光景は避けたいものだ。プールに水が残っているのを思い出した。バケツの水を便器に移し、渦を巻くのを見た。良かった、流れた。しかし、この水の行く道中はどうなっているのだろうか、ということを考えるのは止めた。二つのバケツに水を入れて、これでプールの水を汲んで流すように書いておいた。

体育館にはどれくらいの人がいるのだろう。床は半分近く、人で見えなくなっている。同じ町内の人々が島を作るように固まっているようだ。お互いを悼むように、人の声が雑音と室温を上昇させた。この小学校の卒業生かもしれない若者たちが、ここへ来る人たちに聞き取りをしながら、ご近所さん同士を固まるように誘導をしている。受付の近くには、特別に連絡をまっているのだろうか。何人かが特別な島を作っている。今、何時頃だろう。体育館の時計は11時で止まったままだ。何年か前から、時間は携帯電話で確認をする癖がついている。

災害対策本部から誰かが来た。今来たのが早いのか遅いのかはわからない。何かを持ってきたのではないらしい。連絡事項だけだ。報道関係が来るから対応をしてくれと言っている人がいる。来てもらわなくて良いと思う。えらいことだ、運動場にバスが入ってきた。



HUG（はぐ：避難所運営ゲーム）で良かったという話では済まされない、現実には起こりうる事として、できれば体験をしなくても済むことをのぞみながら、事が起こった時には、せめて冷静な判断が出来る人たちが集えるように、訓練の一つとして生活者への発信を検討している。

（記・生駒支部 伏見康司）



お知らせ

Information

●入会促進キャンペーンのお知らせ

このたび平成29年3月末までに入会される方に対して入会金相当額を助成する入会促進キャンペーンを開始いたします。今年度の建築士試験合格者だけではなく、すでに建築士として活動されている方も含めて全ての入会対象者に助成いたします。助成金の手続きは特にありません。入会申込書を提出していただく時に入会金を除いて月割り会費だけお支払いいただきます。

会員の皆様から入会対象者の方への積極的なはたらきかけをお願いいたします。(総務企画委員会)

●平成28年度 奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会 (更新及び新規登録) CPD=3単位

開催日時 平成29年1月19日(木)

13:00~16:30 (受付12:30~)

会場 奈良県文化会館 小ホール

定員 150名

申込期日 平成29年1月10日(火)まで

※平成28年度奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会はこの開催のみですご注意ください。

※詳細・申込は、チラシ(12月同封済)の用紙をご覧ください。

※会場へはできるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

●平成29年新年大交歓会 ~異業種とつながろう~

本年も会員との交流を拡げてゆくべく「平成29年新年大交歓会~異業種とつながろう~」と題して開催いたします。奈良県立医科大学 遊左敏彦氏の講演会「医学を基礎とするまちづくり」を予定しています。

皆様お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。

1 開催日時 平成29年1月27日(金)

18:30~ (受付18:00より)

2 開催場所 橿原観光ホテル(橿原市久米町862)

3 参加費 5,000円(当日受付にて)

※1月18日(水)までに事務局までお申し込み頂きますようお願いいたします。

●一級・二級及び木造建築士合格者 見学会及び祝賀会

青年委員会では、今年も建築士試験に合格された方を対象に実施いたします。お知り合いや社員の方に今年度一・二級及び木造建築士試験に合格された方がいらっしゃいましたらご案内頂きますようよろしくお願いいたします。

日時:平成29年1月15日(日)

11:00 近鉄奈良駅 行基像噴水前 に集合

11:45~17:00 祝賀会・各種見学

※見学会終了後、有志にて懇親会を予定しておりますので、あわせてご参加下さい。

参加費:無料

定員:30名(申込先着順)

申込期日:平成29年1月10日(火)まで

主催:(一社)奈良県建築士会 青年委員会

●平成28年度一級・二級・木造建築士定期講習についてのお知らせ

【第4期】

日時:平成29年2月23日(木)

場所:ホテルリガーレ春日野(奈良市)

定員:60名

※平成29年度定期講習は(一社)奈良県建築士事務所協会が受付を行います。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏名	支部	勤務先〒	勤務先住所	勤務先
中 猛	天理	632-0078	奈良県天理市杉本町276-13	中建設

新入賛助会員のご紹介

会社名	代表者	住所	TEL
福井コンピュータアーキテクト(関関西営業所)	稲田 英二	大阪市城東区永田4-15-6 深江橋MHビル2F	06-6963-5310
(株) 昌大建設	泉川 敬信	東大阪市高井田中4丁目5-1	06-6783-8711
(株) 豊明	岡本 高光	奈良県北葛城郡王寺町畠田8-1757-3	0745-32-7198

編集後記

2016年は予想外のことがあった年と言われます。例えば政治の世界ではアメリカの大統領選は大方のマスコミの予想が外れました。イギリスのEU離脱でも結局は大丈夫だろうという従前の予測を裏切ることが起きました。これは分析や予測の精度が下がっているというよりも、個人の考えが世界に拡散する時代になりそれぞれの本音を隠しておくようになっていないのでしょうか。コミュニケーションの手段が世界に広がるほど大きくなりすぎて、身近な人々とコミュニケーションの密度が下がっていると感じます。世代間の交流の難しさはいつの時代でも同じでしょうが、日本では人口減少により働く人は減少し、仕事などを教える方法も変わっていくことを意識して、建築の世界を継承していかななくてはなりません。人から人につなぐことに時間がかかっているうちに、AIが進化

してきました。すでにコンピューターなしでは生きられないのですが、道具として使っている内はましでした。人間の思考に近づくAIによって土業の領域は喪失する内容が多いと言われるのですが、人間が合理的、効率的に縛られない感性が必要とされる以上建築の仕事はなくなると信じます。

(認識が甘いかもしれませんが)

自然が私たちに及ぼすものは人知を超えるため、災害があるたびに想定外なる言葉が蔓延するのはやむを得ないかもしれません。環境に変化に対峙しつつ、次々と発生する問題に対応するマンパワー不足、様々な事象の想定不足や過大な想定に悩まされつつ技術の革新によって建築は解答を得ることができるのでしょうか。

とにかく2017年はいい年でありますように。

(記・福本保治)

Calendar

2017年1月

- 1(日)  元日
- 4(水) 事務局仕事始め
- 9(月)  成人の日
- 19(木) 奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会 (奈良県文化会館)
- 22(日) 奈良県地域文化財建造物専門家スキルアップ講習会4回
- 25(水) 住宅無料相談会 (奈良県建築士会館)
- 27(金) 平成29年新年大交歓会 (橿原観光ホテル)

Calendar

2017年2月

- 7(火) 実務者のための設計・監理契約書講習会
- 11(土)  建国記念の日
- 22(水) 住宅無料相談会 (奈良県建築士会館)
- 23(木) 第4期定期講習 (ホテルリガーレ春日野)

士會奈良 通巻611号

平成29年1月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 瀧上 徳光
編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印刷所 株式会社 明新社

日本で最も多くの1級建築士を輩出し続けている学校です。

※平成24～28年度(過去5年累計)1級建築士設計製図試験 合格者合計19,562名中、当学院受講生10,636名、全国合格者占有率54.4%。平成28年度1級建築士設計製図試験 全国合格者3,673名中、当学院現役受講生1,957名、全国合格者占有率53.3%。

平成28年1級建築士設計製図試験

奈良県
合格者占有率

No.1

奈良県 合格者占有率

60.9%

奈良県合格者23名中、当学院現役受講生14名

平成28年2級建築士設計製図試験

奈良県 ストレート合格者占有率

46.7%

奈良県ストレート合格者45名中、当学院現役受講生21名

平成29年度
1級・2級建築士
学科対策講座

1月開講日
お申し込みは
お早め!

1級・2級 建築士

建築設備士

1級・2級 建築施工管理技士

1級・2級 土木施工管理技士

1級 管工事施工管理技士

設備設計・設備設計1級建築士

宅地建物取引士

インテリアコーディネーター



総合資格学院

学院長 岸 隆司



総合資格

検索

Facebook「総合資格」で検索

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

奈良校 TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分